

日常を支えてくれる税金

所沢市立美原中学校

三年 海野 璃和

夏休みの塾帰り、私はゲリラ雷雨に遭った。雷は物凄い音を立てて鳴り、目を開けるのもやっととなくらい激しく雨が降り出したその時、交差点で『ガシャーン』という音が聞こえた。全てが一瞬にして消えた。雷が落ち停電したのだ。家の灯りやお店の照明は消え、街頭も信号機も何もかも真っ暗。どうしよう。渡りたいけど渡れない。怖くて泣きたくなかった。すると、パッと世界が明るくなった。すぐに電気が復旧した。今のうちだと信号を渡り、やっとの思いで家に着き、慌てて心配そうに出てきた母は、全身びしょ濡れで帰ってきた私を見ると、すぐにお風呂に入るように言ってくれた。私はシャワーに打たれながらふと思った。ほんのちよつとの時間でも不安と恐怖でいっぱいだったのに、もしあのまま停電が復旧しなかったら、暗闇の中、手探りで帰らなければならなかったんだと。

次の朝、私は朝食を食べるなり、明らかにおなかの調子がいつもととは違った。前日に体が冷えたのか、久しぶりに病院へ行き、胃腸炎の薬を処方してもらった。

「海野さん、今日はお会計ありませんのでお大事にどうぞ。」と言われ、内科でも薬局でも一円も払わずに、帰ってきた。

毎日、当たり前のようにきれいに舗装された道路を歩いて学校に通う。途中、赤信号に遭遇すれば、身勝手にイラつき、学

校に着けば、教室には机と椅子があり、毎年新しい教科書を使って勉強をする。塾帰り、雨に打たれて体調を崩せば、無償で病院を受診する。夏休み前の租税教室がなければ、ゲリラ雷雨の停電もただの“ホントにあつた怖い話”で終わってしまったが、税金について考えるきっかけを与えてもらったことで、毎日何気なく送っている暮らしは決して当たり前なことではなく、税金のお陰で安心して生活し、勉強できる環境を与えてもらっていることに気付かされた。

税金でよく耳にするけど分りにくい。分かろうとしないと思えてこない。たかだか二日間の出来事にも、これだけ税金の恩恵を受けていることに気づく。その税金を支えているのは誰なんだろうと考えてみた。納税者だ。日本には、約五十種類の税金がある。直接的な税と、間接的な税があり、それを納めている人や会社がある。そう言えば、毎年父がふるさと納税でマスクットやお肉を買っている。私も微々たる金額だが消費税を払っている。将来、社会人になって働くようになれば、お給料をもらって私も税金を支える立場の一人になる。これから訪れる高齢化社会によって、若い納税者は減り、国の税金収入が減ることが予測される。今と同じように豊かな暮らしを守っていくために、きちんと納税できる大人になるために、私たち一人一人が税金のしくみや使い道について理解を深めていくことは大切だと思う。